



ルール改正の要点について



2018年4月2日

益財団法人日本レスリング協会
審判委員会

1 コンソルテーションについて

- ・ マットチャーマンが行うコンソルテーションの際、審判団がV T Rを見ることは廃止とする。

2 反則について

- ・ 全スタイル粗暴行為を繰り返した選手に対しては、「レッドカード」を与える。
- ・ フリースタイル・女子
 - ① 全ての反則は基本〇 + 1とする。
 - ② デンジャーポジションで場外に逃げた場合は〇 + 2とする。(全スタイル)

・ グレコローマンスタイル

- ① 攻撃者の足の反則
 - 1回目 注意
 - 2回目 〇 + 1
- ② 防御者の足の反則
 - 1回目 〇 + 2
 - 2回目 失格

3 パッシブについて

1) パッシブの摘発について

- ① フリースタイル・女子は従来通り。(変更無し)
- ② グレコローマンスタイルのパッシブの摘発について(上下の選択)
 - ・ 各ピリオド1回・1試合で2回までとする。
 - ・ 時間の設定は廃止する。(0-0場合2分・4分30秒の設定は廃止する。)
 - ・ 以降の消極的な選手に対してはP + 1が入る。(その際試合は止めない。)
- ③ 同点時、どちらかの選手が明らかに攻撃的な場合。
- ④ 得点をリードしている選手が余りにも防御的な場合。

2) レスラーをパッシブとして考える基準

- ① 反撃無しの攻撃回避。
- ② 相手の手首を握り、攻撃を始めない。
- ③ 相手とコンタクトをしないで攻撃する。
- ④ 攻撃をした後すぐに、元のポジションに戻る。
- ⑤ 嘘のアタック (シミュレーション)
- ⑥ ゾーンに逃げ (さがって) 留まる。
- ⑦ センターでコントロールしない。(センターで試合をしない。)
- ⑧ 相手をゾーンに留める。(ゾーンに追い込む。)
- ⑨ 良いポジションにも関わらず、攻撃しない。
- ⑩ 守備的なレスリング。(守ってばかりいる。)
- ⑪ ネガティブなレスリング
 - ・ ブロッキング
 - ・ ヘッドダウン (上半身を起こさない。)
 - ・ 指のロック
 - ・ スタンドレスリングでオープンを避ける。

・相手の胸に頭をつけ続ける。

3) パッシブ対象とならない場合

- ① レスラーが多く得点した場合、余りにも防御的にならない限り。
- ② 得点した選手はすぐにはパッシブ対象にならない。
- ③ リードしている選手に安易にパッシブを与えない。

4) 特別な例

- ① 第1ピリオドで5-0・6-0とリードした選手に第2ピリオドにPをとりパーテレポジションにするより、フリー・女子は「O+1」グレコは「O+2」の対応が良い。(技術回避)
- ② ベストマッチであれば、Pを取らない試合もありうる。

4 パーテレについて

- ① パーテレポジションでは、攻撃者は相手の肩に手を置く。
- ② パーテレポジションでは、防御者は頭をマットにつけても可。
- ③ パーテレポジションから立ち上がって逃げる行為は反則。(笛と同時に)
- ④ 攻撃者が前に回った場合は、立ち上がっても良い。
- ⑤ 防御で片腕が手首、片腕が肘であれば問題ない。
- ⑥ 両手で同じ場所をつかむことは反則。

5 アタック・カウンターの見極めについて

- ① アタック



5 レフリー関係について

- ① ネガティブレスラーを確認するためにスコアシートの欄にアタックした数をXマーク記入すること。
 - ② ツーオン・ワンで肘を決めた場合は反則。
 - ③ 指掴み・手首掴み等厳しく対応することが重要。
 - ④ 反則行為について
 - 1回目 注意
 - 2回目 O+1 (GRはO+2)
 - 3回目 O+1 (GRはO+2)
- * 異なった反則でも、同じ対応。

6 マットチエアマンの役割

- ① フォール、P、コーションをキャンセルできる。
- ② テクニカルフォールが成立したときに試合を止める。
- ③ スコアボードを更新させる。(常にチェックすること。)
- ④ チャレンジの拒否 (5秒後)
* 最初にレスラーが要求し、コーチが遅れて出した場合は認める。

7 ルディクシステムの変更について

- ① 6名未満の場合、リーグ戦方式で実施し、リーグ戦の最終ラウンドは2日目の実施となる。(3位は1名となる。)
- ② 6名・7名の場合は、初日2ブロックプール制リーグ戦の後、2日目にクロス準決勝・3位決定戦・決勝を行う。(3位は1名となる。)

【オーダーズ・パーテレ・ポジション (全てのスタイル)】



注意事項

オーダーズ・パーテレのスタート後

- 下のレスラーはルールブックで定められたディフェンスは認められる。
*リフトされた選手が片腕でのディフェンスは良いが、両腕でのディフェンスは認められない。
 - 上のレスラーからジャンプや逃避、腕・肘や膝のブロック(「オープン」の発声対象)、足を用いたディフェンスは認められない。
- ※レフリーはオーダーズ・パーテレ・レスリングに十分な時間を与えるべきである。数秒で中断してはいけない。